

平成24年度 地域とともにある 学校づくり推進協議会

【東京都小平市実践発表】

小平地域教育サポート・ネット事業
(学校支援地域本部事業)

小平市教育委員会
教育部生涯学習推進課

●小平市(昭和37年市制施行)

- 位置 都心から西へ、26 Km
- 面積 20.46km²
- 人口 185,535人



* 都心部へのベッドタウンとして戦後急速に人口が増加、市内には6つの大学、6つの高等学校があり学園都市としても発展しました。

◎小平市立学校 小学校19校 児童数 8,992人
中学校 8校 生徒数 4,185人

(平成24年5月1日現在)

●教育委員会の教育目標と基本的な考え方

小平市教育委員会では、目指すべき「教育目標」と、その実現に向けた「基本的な考え方」を定め、毎年改定を行っています。

その中で、特に地域教育に関係する部分についてご紹介します。

「教育目標」では、

「教育は時代の変化と社会の要請に主体的に対応し、21世紀を担う人間を育成することが求められている」として、そのために、「多様なニーズに応じた学習環境や教育条件の整備に努め、一人一人の子どもたちに一層きめ細かい支援を実現していくために、学校の教育力を高めるとともに、**家庭や地域と一体となって小平市の教育を創造していく**」としています。



「基本的な考え方」では大きく4つの考え方に分けて、特に3・4で地域教育に関する考え方が定められています。

【基本的な考え方3 「生涯学習・スポーツ」の振興】

少子高齢社会の中で、総合的な教育力の向上や世代を超えたコミュニティづくりを目指し、活力ある社会を築いていくよう、子どもたちの健やかな成長を社会全体で支えるとともに、市民一人一人が生涯にわたって学び、社会に貢献できるようにすることが求められている。

そのために、家庭、学校及び地域社会の教育力を高め、その連携が進むよう支援するとともに、人々が生涯を通じて、自ら学び、文化やスポーツに親しみ、社会参加できる機会の充実を図る。



【基本的な考え方4「市民の教育参加」と「学校経営の改革」の推進】

家庭、学校及び地域社会の協働と市民の教育参加を進め、市民感覚と経営感覚をより重視して、教育行政を力強く展開することが求められている。

そのために、広域的な視点に立つ教育行政を進めるとともに、東京都及び区市町村教育委員会との緊密な連携・協力の下に、効率的で透明性の高い開かれた、市民に信頼される魅力ある学校づくりを目指した自律的な学校経営への改革を進めていく。



●小平地域教育サポート・ネット事業 (学校支援地域本部事業)

小平市教育委員会では、「開かれた特色ある教育活動の推進」、「世代を超えたコミュニティづくりの推進」を展開する中で、平成14年度に東京都の

「地域教育サポート・ネット事業（3年間補助事業）」モデル地区の指定を受け、「未来を担う子どもたちを地域で育てる」ことを目指して、この事業を開始しました。モデル校として小平第二中学校地区の4校（小学校3校、中学校1校）を対象に、「学校支援ボランティアの養成・積極的活用及びコーティネーターの養成事業」に取り組みました。

平成17年度からは、それまでの成果を踏まえ、市の単独事業「小平地域教育サポート・ネット事業」として、二中地区の充実と他の学校への拡大を目指して継続実施してきました。



●学校支援コーディネーター

学校支援コーディネーターは、学校とボランティア、あるいはボランティア間の連絡調整等を行い、この事業の実質的な運営、中核的役割を担うもので事業の成果を左右する重要な存在です。

教育委員会では、平成24年度からコーディネーターのスキルアップを図るための研修に力を入れることにしました。

平成18年度から、「**コーディネーター世話人**」を**学校長の推薦により教育委員会が委嘱すること**となりました。平成20年7月からは国の委託事業

「**学校支援地域本部事業**」を受託し、平成24年4月現在、市内27校（全校）で50人のコーディネーター世話人の方が活動しています。

平成24年3月現在

合計	学校教職員	PTA（現役）	PTA（OB）	その他
103	4	20	52	27

上記のコーディネーターの中から、各学校2名以内の「コーディネーター世話人」を学校長が推薦して、教育委員会の委嘱を受けています。



●コーディネーター世話人の役割

コーディネーター世話人は、この事業を実施していくために、学校支援ボランティアとともに必要不可欠な存在です。学校と地域をつなぐパイプ役として、学校の求めに応じて、次のような活動をしていただくことを想定しています。

- ①学校と学校支援ボランティアとの連絡調整
- ②教員の求めに応じ、授業に必要な人材をコーディネート
- ③学校と協力して、学校支援ボランティア養成講座などの企画や運営、必要な人材の確保や、ボランティアのスキルアップを図る
- ④学校だけでは実現できない授業や刊行物の発行などを学校と協力して実現
- ⑤必要に応じて、学校や学校支援ボランティアの相談

これらは、あくまでも一例です。**各学校には、それぞれの特徴や地域性・校長の考え方に違いがあり、全ての学校で同じことを実施することは、難しいと考えています。**

そこで、コーディネーター世話人は、**学校が何を求めているのかを把握し、できることを無理のない範囲**で行っていただくようお願いしています。



●ボランティア養成講座

学校支援ボランティアの養成講座は、学校が必要とする**ボランティアの養成**すでに活動している**ボランティアのスキルアップ**を目的に、各学校がコーディネーターと調整しながら講座内容や講師を決めて、**学校を会場として開催している**ところが小平市の大きな特徴です。

したがって、講座を受講した方は、講座で基本的なものを学ぶことによって**学校支援ボランティア活動にすぐ参加できるという仕組み**になっています。

また、この講座は、学校が必要とする人材を、広く集めるためのきっかけづくりになるとともに、これまで学校と接点のなかった地域の方々にも、**学校をよく理解してもらえよう機会**になっているものと考えています。

必要に応じて講座の開催を市の広報紙に掲載し広範囲にPRしています。



●ボランティア養成講座の実施状況

年度	実施校	講座数	延回数	延参加者数
14年度	4校	15講座	72回	1,019人
15年度	4校	14講座	50回	803人
16年度	4校	16講座	34回	567人
17年度	7校	16講座	21回	404人
18年度	11校	16講座	18回	342人
19年度	15校	29講座	29回	577人
20年度	21校	54講座	56回	1,372人
21年度	21校	59講座	59回	1,255人
22年度	22校	78講座	78回	1,745人
23年度	26校	85講座	85回	2,201人



●23年度ボランティア養成講座の実施状況(抜粋)

薬物乱用について	ハーフパンツ製作講座	つぼみスクール	情報モラル教育
ボランティア入門講座	安全パトロールの方法	園芸ボランティア養成講座	お母さんのための将棋教室
学校支援ボランティア養成講座(園芸)	茶の作法を学ぼう	1からの数学	季節の花とフラワーアレンジ
夏の花壇を作ろう	特別支援学級とは	これからの防災・減災	みんなで学ぼう体幹トレーニング
芝生に親しもう	図書ボランティア養成講座	授業支援入門講座	タイ文化と料理を楽しむ
普通救命講習	朗読会	食育講座	応急救護訓練
災害伝言板サービス	安全見守り講習会	コミュニケーション講座	花エコプロジェクト
切り紙でしおりを作ろう	心に響く読み聞かせ	小平うどん作り	紙粘土でバラを作ろう
倒立の補助の仕方	絵本で旅するアメリカ	学校図書館の装飾	プレ1年生
本の修理方法	実験教室ボランティア養成講座	学校支援ボランティアの役割と課題	読み聞かせのコツ



●ボランティアの活動状況

学校支援ボランティアには、大別して、大学生を中心とした学生ボランティアと、保護者や地域住民を中心とした社会人ボランティアがあります。

	平成22年度		平成23年度		増減	
	延べ人数	延べ時間	延べ人数	延べ時間	延べ人数	延べ時間
学生ボラ	2,058	7,417	2,822	11,636	764	4,219
社会人ボラ	38,040	51,476	31,974	52,553	▲6,066	1,077
合計	40,098	58,892	34,796	64,189	▲5,302	5,297

平成17年度以降は、毎年約40,000人の方が、約60,000時間ボランティアとして活動されています。



●小平地域教育サポートネット事業の効果

① 本物の体験、学習の幅が広がる、様々な人との出会いが子供の夢を育てる (子どもにとって)

本物の体験によって学習の幅が広がり、深く学ぶきっかけづくりとなるとともに、多くの地域の人たちとの出会いが子供の夢を育てたり、あいさつを交わすようになるなど社会性を育むことにもつながります。

② 子供の課題に関してより専門的な授業が展開できる、専門性に触れるよい機会 (教員にとって)

授業の周辺業務を地域の人たちの支援を受けながら、子供の課題に対してより専門的な授業が展開できます。教師自身も専門性に触れるよい機会となっています。

③ 子供から元気をもらえる、自分の生きがい、自分の将来に役立つ (ボランティアにとって)

社会人ボランティア（特に高齢者）からは子供から元気がもらえる。自分の持っているものを活かすことができ、生きがいとなっている、という声があります。

教員を目指している学生ボランティアからは、現場で子供たち、先輩としての教員、保護者や地域の人たちと日々触れ合う機会があるというのは、自分の将来にとっても非常に大切なフィールドワークとなっているという声を聞きます。



●小平地域教育サポートネット事業の課題

◆事業内容等が教員・市民に十分浸透していない

◆コーディネーターの後継者の養成

◆教科学習支援や特別支援教育のサポートの在り方

◆サポート・ネット事業としての新しい取り組み

(キャリア教育などへの支援等)



地域は大きな教室

小平市立中学校 学校支援コーディネーター
連絡協議会 会長 布 昭子

関わったきっかけ

- H14年 東京都の地域教育サポートネット事業のモデル地区としてスタート！
- 学校が必要な人材を集めるために、ボランティア入門講座、養成講座を学校で開催。
- 小平の市報と学区域の全戸配布の広報にて講座を知り、地域の15人の仲間とボランティア養成講座で出会い、教科のボランティアとして、授業に関わる。
- 人と出会い、理解し、いっしょに関わる中で、内容の振り返りをする中から発見した気づきを、お互いの関係より良くするための課題として、徹底して話し合いました。

はじめまして！

富山県出身 東京都小平市在住18年

子育てをしながらPTA・青少年地区対策委員会・地域の福祉サークル活動・育児サポーターとして赤ちゃんから親世代までの様々な関わりの経験を、未来を担う子供たちの学びに役立てたいと今の活動は10年になる。「一人を大切に」をモットーに活動中。

小平市内の小中学校の複数校に教育支援コーディネーターとして関わる。小平市社会教育委員・小平市行財政再構築推進委員会運営副委員長を経て、現在、小平市教育振興計画検討委員・地域教育推進ネットワーク東京都協議会コーディネーター育成企画委員・文部科学省中央教育審議会特別部会委員などを歴任。

学校支援リソース冊子「まなびアンテナ」製作チーム代表を務める一方、複数のNPOに所属。周りの大きな支えあつての私です。防災教育・コミュニティのつながり・どのように物や情報を片づけるか・アンチエイジングが、今関心大！

学びのパートナー

として

信頼と連携の継続

のために

何が 必要ですか？

コーディネーター機能 つながり 人財
資質 **学び** 情報の引継ぎ
意欲 **信頼関係** 目的
居場所 ビジョン
予算 時間 守秘義務
仲間 新学習指導要領

課題

誰だって
(先生でも)
不安がいっぱい！

学びのパートナーとして信頼と連携の継続の為に

人間関係を取り
結ぶという**意識**

人と**話す**事

学びのパートナーとして信頼と連携の継続の為に

人間関係を取り結ぶという意識・・・人と話す事

自分から笑顔(明るい表情)で挨拶をする
お互いを理解し距離感を大切に
話す内容と伝える相手を、
立場と役割によってマッチングさせてつなぐ事
報告・連絡・相談(勝手に判断しない)

仲間や相談できる人がいること

足腰を鍛える(健康管理に気をつける)

学びのパートナーとして信頼と連携の継続の為に

活動するには・・・

目的を明確にする(ぶれないために)
居場所を確保する(掲示板一枚から)
安心安全のためのルール作り
小さな事でもメモを残す(FAXが有効)
必要な情報を得る
広報を工夫する
必要経費を確保する
コーディネーター機能目標目的やビジョンの共有

何のために

子どもたちにとって一日の大半を占める
学校生活が楽しく送るために必要な事は

1. 勉強がわかること
2. 友達がいること
3. 自分の役割があること

課 題

お互いの打ち合わせが
なかなかできない

居場所

PTA室

ふれあいルーム

職員室

コーディネーターの机

研修

ちょこっと研修(教員向け)

入門・スキルアップ講座

(ボランティア向け)

成 果

顔が見える関係が構築

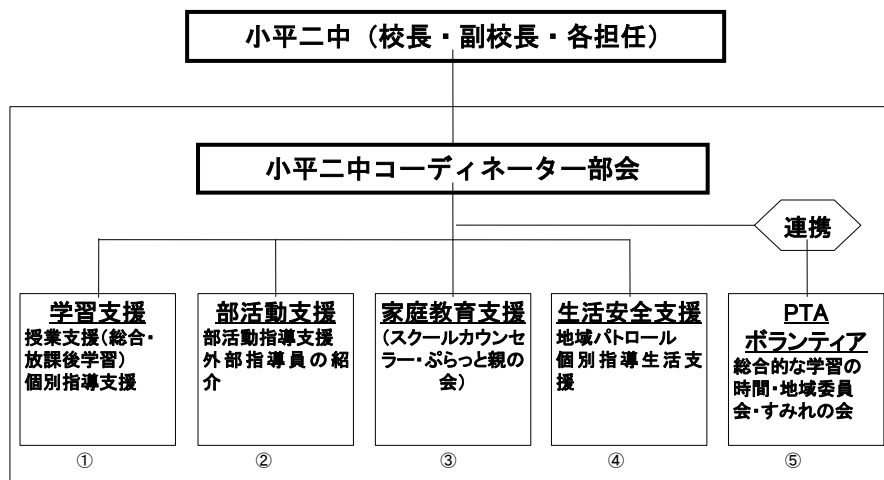
大事な話が落ち着いてできる

守秘義務

情報のやりとりの場が確定

打ち合わせの場所がすぐに確保できる

小平二中 学校支援ボランティア体制



課 題

コーディネーター
(ボランティア)は、
どこまで関われば
いいの？

4つの役割

受けとめる

- 学校のニーズ
- 先生の感想・相談・悩み・喜び
- ボランティアのニーズ
- ボランティアの感想・相談・悩み・喜び

知らせる

- 学校が必要とするボランティアの情報
⇒募集
- 活動の様子を先生や保護者に伝える
- 地域に活動の情報を周知する。

つなぐ

- ボランティアや地域の情報収集
- 学校のニーズの把握
- 調整してボランティアを紹介

育てる

- かかわる大人の視点を増やす
- 先生方への研修の企画・実施
- ボランティア研修の企画・実施
- 先生とボランティアの交流会
- 他の地域へ出かけて研修に参加

学びのパートナーとして信頼と連携の継続の為に

学び続ける意欲

新学習指導要領や特別支援など最新の
情報を知る・理解する

(教科書をよく読む)

様々なNPO・企業・団体の主催している
セミナーなどに出掛ける

新しいものを創り上げる力

決断する勇気と相手を尊重する心

できる人が、できる時に、できる事を

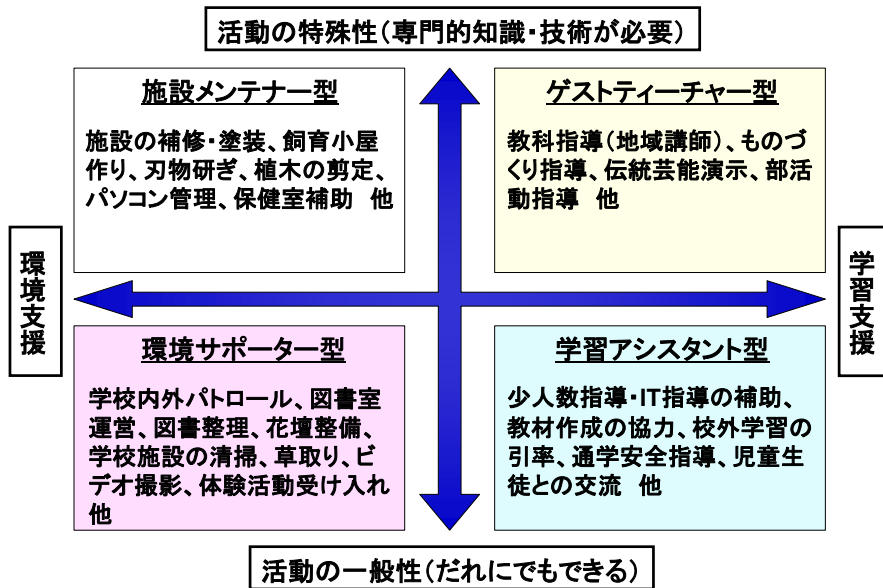
コーディネーターの存在と コーディネート機能の強化

学校教育にふさわしい事業計画
をたて、効果的に多様な人財の力
をとりいれる事ができる！！

課 題

集まった人財
(情報)をどのように、
形にしていけばいい
のか？

学校支援ボランティアの分類



成 果

- 学校の特徴をだすことができる。
- ねらいに応じた募集ができる。
人が集まらなくても、支援の目的が浸透するきっかけとなる。
- 全体が見えて、相互の理解が進む。
自身の興味関心を広げ深める機会になる
新しい人との出会いが生まれる

要 望

- きめ細かい支援をお願いしたい
- 人材不足 ←生徒数が多いため
- 講師の力量不足←大人に対するノウハウが必ずしも子供に通じるとは限らない
- もっと子供たちが必要だと感じられるマナープログラムにしたい

相互の情報を収集する

目的に応じてマッチングする

対 策

コーディネーター自身の人脈からいくつかの関連企業に相談をしたところ、趣旨を理解してくれたのは地元企業であった。その企業では次世代や人材育成に関心があったことから、ただの1イベントで終わらずに継続的な支援を行うために会議で承認してもらい、社内で人材募集を行った。
新人研修用の教材を子ども用の教材に改良した。「なぜマナーは必要なのか、なぜ挨拶は大切なのか、今の中学生がまったく理解していない」という前提で検討し、授業支援前に社内研修を実施した。

実 施

9月17日 3・4限目 保育・福祉動物・専門学校・金融官公庁
10月8日 3・4限目 工場サービス・飲食・販売・金融官公庁

継続のために

内容のレベルアップのために

振り返り

先生の声

- プロの技を見せてもらったと実感した

子供たちの声

- マナーの大切な意味が少し分かった

かかわっていた人たちの声

- 大切なことを少しでも伝えることができた
- 自分の仕事の振り返りになった



続けてきて良かったこと

子どもたちの輝く笑顔

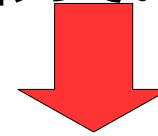
先生方の安堵の笑顔

ボランティアの温かい笑顔

地域の安心の笑顔

これからも、寄り添って・・・

大人たちがそれぞれの
立場・役割・スタイルで
つながり関わっていきませんか。



次世代の子どもたちを
育てるために！！